

5. LINE公式アカウントを使った事例

ここ1年ほどで、全国的に多くの自治会・町内会が、LINE公式アカウントの運用を始めています。料金プランの改定を受けて悩むことも多いようですが、地域の実状に応じた運営をしています。ここでは、市内の事例を紹介します。

清水区
馬走りヶ丘自治会

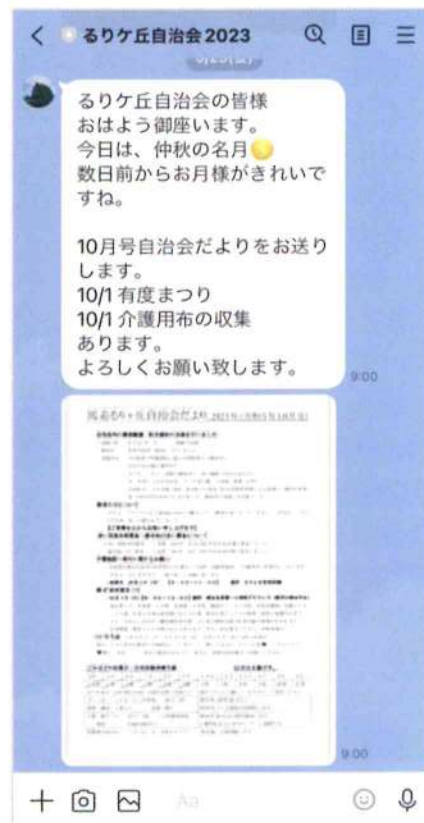
未認証のLINE公式アカウントで 住民向けの特定の情報を発信

馬走りヶ丘自治会では、LINE公式アカウントで、住民のためのローカルな情報を発信しています。毎月の「自治会だより」や防災情報、資源ごみ回収日の前日には翌日の回収のお知らせを出したり、地区内の落とし物についてもお知らせすることがあります。とても身近な向こう三軒両隣の情報です。

馬走りヶ丘は、LINEアプリの検索結果に表示されない、未認証のLINE公式アカウントを使っています。検索結果に表示されないのが、登録者がある程度限定できるのですが、逆に、住民に登録してもらうために、QRコードを読み取ってもらったり、人づてに紹介してもらったりするなど、拡散の手間が必要です。

大石里美自治会長は、馬走りヶ丘のLINE公式アカウントは、自治会だよりや会費の用途報告など、広く知らしめる必要のない情報を発信するので、検索結果に表示される必要はないと判断し、未認証アカウントで運営しています。

馬走りヶ丘は178世帯ですが、LINE公式アカウントの登録者は、138人もいます。多くの住民に登録してもらうコツは、毎月発行している「自治会だより」に何度もQRコードを載せて周知したり、わからないことがあれば、組長さんに聞いてもらったりしているそうです。そして、頻繁に発信すると通知が多すぎて登録をやめてしまう人がいるので、頻繁に配信しすぎないこともコツなのだそうです。どのような情報をだれと共有したいのかによって、使い分けることが大切なのだわかります。



葵区
清沢地区
自治会連合会

LINEを使えないのに LINE公式アカウントの情報が届く？！

清沢地区では、令和元年から連合自治会がLINE公式アカウントを運用しています。令和4年台風15号の際にも、避難所開設や災害復旧の情報などを流しました。清沢地区はるけ丘と違い、認証済のLINE公式アカウントを使っています。これにより、地域外の人も検索をして、清沢地区のLINE公式アカウントに登録することが可能なのですがこれが思わぬ情報共有に役立っていることがわかりました。

LINE公式アカウントに登録をしていない年配の方が、いつもLINE公式アカウントで流した情報をよく知っているのが、不思議に思っていて聞きたそうでした。すると、東京に暮らす娘さんが、清沢地区のLINE公式アカウントに登録していて、LINE公式アカウントに情報が流れてくると、離れて暮らす清沢地区の両親に、電話で情報を教えてくれるのだそうです。思わぬ連携プレーによって、情報が必要な人に届いているようです。よくLINEは高齢者が使えないと言われますが、LINEが使えない方にもLINEの情報が届く可能性が明らかになりました。地域の正しい情報は、離れて暮らす家族にとっても安心のひとつになるのかもしれない。

【清沢地区自治会連合会LINE公式アカウント】

